

## 0090 | 経済学

2 単位 (通信授業 2 単位)

新堂精士講師

## 授業の概要と目標

経済学を学ぶ意味はいくつかあるが、市民として経済学を学ぶ意味を考えるのなら以下の2つではなかろうか。第一に、現代社会において私達の社会に大きな影響を及ぼすと考えられる「格差・経済成長・デフレ・貧困・失業・貿易摩擦・エネルギー・環境」などの問題の解決には、経済学の知識必須であること。第二に私たちが日常行う様々な意思決定において経済学の考え方が役立つということである。この授業では主に後者、したがって経済学の考え方を学ぶことを目標とする。具体的には日本人の優れた経済学者である宇沢弘文先生と森嶋通夫先生が、経済学の歴史と考え方について書かれた本を読んでいくことで経済学に固有の考え方の習得を目指す。

## 課題の概要

## ○通信授業課題 1

教科書1『経済学の考え方』の中から自分が興味を持った章を選び、まず、その章を要約し、自分で調べたこと等を踏まえて、自分なりの考察を加えレポートとする。

## ○通信授業課題 2

教科書2『思想としての近代経済学』の中から自分が興味を持った章を選び、まず、その章を要約し、自分で調べたこと等を踏まえて、自分なりの考察を加えレポートとする。

\*課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成29年度』を必ず参照すること。

## 授業計画

教科書を使用する。

1. 『思想としての近代経済学』の序章、「経済学の考え方」の1章を読む
2. 『経済学の考え方』の2章 アダムスミスの国富論
3. 『経済学の考え方』の3章 リカードからマルクスへ
4. 『経済学の考え方』の4章 近代経済学の誕生
5. 『経済学の考え方』の5章 ソーンストン・ヴェブレン
6. 『経済学の考え方』の6章 ケインズ経済学
7. 『経済学の考え方』の7章 戦後の経済学
8. 『経済学の考え方』の8章 ジョーン・ロビンソンの経済学
9. 『経済学の考え方』の9章 反ケインズ経済学の流行
10. 『経済学の考え方』の10章 現代経済学の展開
11. 『思想としての近代経済学』の第I部 [ビジョンと理論]
12. 『思想としての近代経済学』の第II部 [ビジョンの充実]
13. 『思想としての近代経済学』の第III部 [パラダイムの転換]

11・12回についてはそれぞれ各1章を、13回については2章を選んで学習してよい。

## 成績評価の方法

## ◎科目試験

科目試験は持ち込み不可の論述試験1から2問を基本とする。試験の内容は、教科書に出てくる経済学者あるいは学派を選んで、考え方を要約し、それに対する批判的な検討を加えて述べるというものである。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] なし

[備考] 履修年次は問わない。

## 教材等

教科書：1. 宇沢弘文『経済学の考え方』（岩波新書 53 1989年）

2. 森嶋通夫『思想としての近代経済学』（岩波新書 321 1994年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成29年度』

（武蔵野美術大学通信教育課程 2017年）

## その他

2つの教科書から各1章を選ぶのが原則だが、どちらかの教科書から2章以上を選んでレポートを作成してもよい。また、2章以上にわたって取り上げられた経済学者、例えば『思想としての近代経済学』のケインズやパレート等を取り上げてもよい。